

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 20 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホーム うらら金山		
所在地	岐阜県下呂市金山町988-1 (電話) 0576-32-2131		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年12月13日	評価確定日	平成21年1月12日

【情報提供票より】 (平成 20 年 11 月 20 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 1 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	6.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	25,800~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(契約金100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 20 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	80 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	下呂市立金山病院、阿部医院、長尾歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に根差したホームとして定着し、「住み慣れた町で明るく楽しく語りながら」という理念の実現をめざし、日々努力している。利用者同士の屈託のない会話や、職員とのやり取りが微笑ましく聞こえている。職員は、定着率が高く、認知症の個別性対応の難しさを感じながらも、自ら学ぶ姿勢を強く持ち続けている。特に、1人の男性介護職員は、利用者から親しまれ信頼と人気を得ており、全職員が目指す手本となっている。利用者の中からは、住み慣れた馴染みの環境のなかで、最期まで穏かに「ここで暮らしたい」との声が聞かれている。管理者・職員は、利用者の気持ちに向き合い、寄り添いながら穏かな暮らしを支えている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員を育てる取り組みでは、事業所内教育を充実させている。他所の介護体験を学ぶ姉妹ホームとの職員交流や、認知症関連講習会等に参加し、全職員の教育の機会が確保されるよう改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価は、全職員の意見を集約しサービスの向上に取り組んでいる。外部評価の改善課題は、運営推進会議で取り上げ、改善に向け実践に活かせるように努めている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、毎回テーマを設けて意見交換をしている。地域交流・防災体制・評価結果の検討・看取りに関する意見・家族の要望等があり、事業運営に活かすように取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見を把握するように心がけているが、意見・苦情は出されず、設置した意見箱の活用はない。家族アンケートにも見られるように、思いの行き違いもあるので、遠慮がちな家族の立場に配慮した対話が必要である。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として認められたグループホームとなっている。1年以上も設置に猛反対であった近隣の人々も、現在では、強力な理解者・支援者になっている。散歩での挨拶、ホーム行事を手伝いに訪れたり、野菜などの差し入れは日常的になっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々と交流しながら、馴染みの関係を大切にし、利用者本位の暮らしを支えるための理念を掲げ、日々実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、目線の位置に表示し、利用者・職員にも分かり易く明快である。全職員で共有しながら利用者に優しく寄り添い、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の各種行事には、積極的に参加している。また、散歩での挨拶、近隣の人々をホーム行事に招いたり、農産物の差し入れは日常的になっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者以下、全職員が評価の意義を理解し、改善課題は、全体会議で検討し、サービスの質の向上を常に意識しながら取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月毎に行われ、事業報告・防災体制・看取り・評価の課題・家族の意見等が討議されている。防災では、地域との協力体制が具体化している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは協力的・好意的な関係にあり、介護関連情報、ボランティア情報などで相談の機会も多い。認知症対応の受け皿不足についても話し合っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「うらら通信」を年4回発行し、暮らし振りを写真入りで伝えている。また、毎月の領収書・出納帳に添えて、個々の様子を担当者が手紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を把握する取り組みは十分ではなく、意見箱は設置しているが機能していない。	○	対話の中で何でも言いあえる関係づくりを構築し、利用者・家族等からの意見・苦情等の受け入れ体制とその対処方法を組織化し、出された意見等がホームの運営に反映できるような仕組みづくりに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限であり、馴染みの関係ができています。職員は地元採用の人が多く、利用者とのつながりも身近で接点が多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で、テーマを設定した学習会に重点を置いている。また、研修を受けた者が、詳細に発表・報告して学び合っている。地域の講演会等には、年1~2回、自主的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者と交流し、看取りについての事例を学んでいる。管理者は、岐阜県グループホーム協議会の地域エリアの役員であり、奇数月の会議で、情報の交換がある。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用者から入居のケースが多く、職員と利用者は面識があり、地域の話題も通じ合い、利用者が安心して利用を開始することが出来る。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話をじっくり傾聴することで、苦労話などに共感しながら得がたい経験を学んでいる。干し柿、お茶作り、漬物等を一緒に作り、食べる時の楽しさを共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴や入居時のアセスメント票を手がかりに、利用者との会話などから、最期までここで暮らしたい思いの人、買い物に行きたい人、定期的に家に帰りたい人など把握し、支援に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態をよく把握し、全職員で意見を出し合い、本人・家族と相談しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの定期見直しと、状態に変化があれば随時見直している。その場合は、本人・家族・看護師・医師など関係者の意見を聴き、新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・買い物・外泊・ヒメツルソバ群生地の見学など特別な外出を支援している。また、24時間医療連携体制を取っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診、協力医療機関への受診を支援している。また、必要に応じ協力医院からの往診が得られる体制である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族・医師と話し合い、医療機関での対応を基本方針としている。急変してホームで死亡した場合には、対応できるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心への配慮、同性介助、プライドを損ねない言葉かけに努め、職員会議で徹底を図っている。記録等の個人情報は、流出を防ぐため事務所内で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるものの、利用者の都合を優先させている。絵手紙・折り紙・編み物・レクリエーション・テレビ観賞・散歩など本人の選択を尊重し、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間を30～40分かけ、職員と共に食事を摂り、調理や食材を話題としながら楽しい雰囲気づくりに努めている。食事を楽しめるようテレビは消してある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきで、入浴時間を長くとり、利用者の満足が得られている。入浴の順番表を作り、利用者が納得し混乱はない。また、季節の薬草風呂が楽しみとなっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活に伴う洗濯たたみ、掃除などには利用者も自発的に関わっている。漬物つけ、お茶つき、山菜取り、竹の子掘りも楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに観音様や朝取り市場があり、散歩コースになっている。天候がよければ日常的に戸外に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	これまでは、外出を繰り返す利用者が1名いたが、現在は、体力低下が進み、鍵をかける必要は解消されている。入浴時の職員が手薄になる時間帯のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受け、避難場所も特定している。自治会を通じ、近隣からは防災協力が得られる体制である。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の資格を持つ職員が、栄養バランスに配慮したメニューを作成している。食べる量や水分量は記録をとり、個々の健康状態を把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下や居間には季節感のある草花で飾り、絵画・折り紙作品もあり、居心地よい雰囲気がある。テレビ前のソファ、掘り炬燵がある畳のコーナーや広いウッドデッキは利用者の団欒の場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具、仏具、家族の写真、写真入誕生会の色紙、絵画・手づくり工芸品、小鉢等があり、ほど良く配置されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。